

海外と国税庁の 架け橋として

国際的な窓口

経済のデジタル化によってビジネスの形が多様化している現在、適正・公平な課税を行うには時代の流れに沿った国際課税制度の構築や、多国間での協力が非常に重要です。私の所属する国際業務係は、OECD（経済協力開発機構）事務局や各国の税務当局にとっての窓口業務を担当しております。税務行政が抱える多くの分野にまたがった複雑な課題の解決に向けて、世界が

日本に求めている役割を正確に把握して国税庁内の担当部署に話を聞いたり、実際に国際会議へ出席して他国の知識や経験を国税庁に持ち帰ったりすることを通じて、税務行政の円滑な遂行の一翼を担っています。周りの方にご指導いただきながらではありますが、スケールの大きな仕事にやりがいを感じています。

国税庁の魅力

国税庁と聞くと、どこかドメスティックなイメージを持つ方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし、あらゆる分野でデジタルトランスフォーメーションが謳われる今の時代に日本国内での税務行政を的確に進めていくためには、国際的な課題に向き合うことが必要不可欠です。私はまだ入庁して1



庁内係員
国税庁 長官官房
国際業務課 国際業務係 係員
野川 万柚梨 令和4年入庁

年ですが、税という軸は持ちつつ、国内外や分野を問わない幅広い視点から物事を検討できる国税庁の業務に魅力を感じています。是非、国税庁の説明会に足を運んでみてください。

軸の通った多様な経験ができる職場

上記以外に、民間企業の視察や議員レクの随行、課徴金に関する資料作成、国税庁の広告番組への出演など、1年生職員ながら様々な経験をさせていただきました。

国税庁総合職の魅力は、1年目から多岐にわたる業務を経験できる点です。その経験は幅広いながら「税」という軸が通っており、年次を重ねるほど価値を増す財産になっていくのではないかと思います。

軸の通った多様な経験を積みたい、好奇心を満たしつつ成長したい、自身の成長を通じ国のために貢献したい…そんな意欲的な皆さんに満足いただける職場です。

説明会への参加を通じて、国税庁に興味を持っていただければ幸いです。



税務署調査官
名古屋国税局 小牧税務署
個人課税第三部門 国税調査官
柳生 修吾 令和3年入庁

税庁の仕事の大きな魅力です。

一人でも多くの皆様にとって、国税庁で働くことが将来の選択肢の一つになれば幸いです。



税務行政の現場から 税務署の仕事

私は、個人の方が申告した所得税や消費税について申告が正しいかどうかを確認する税務調査を行っています。個人事業主の自宅や事業所に伺い、事業の内容や申告の流れを聞き取り、帳簿等を見せてもらうことで調査を進めるため、納税者の協力を得ること、話を引き出すこと、税法の解釈やこちらの考えを理解してもらえるように伝えることが重要になります。なかなか難しいですが、経験豊富な先輩方のアドバイスをいただきながら取り組んでいます。また、確定申告期には申告に関する相談のために来署される方や電話の対応も行います。私の所属している麻布税務署は、土地柄もありインセンティブ報酬や外国税額控除の適用を受ける方から申告の相談、外国人の方の来署や電話が多いです。対応できるように日々勉強しています。

税務署での勤務は、総合職職員としてさまざまな検討をしていく上で、「納税者って

税務署調査官

東京局 麻布税務署
個人課税第二部門 国税調査官
津田 優希子 令和3年入庁



どういう人たちなんだろう」、「税務署はどういう動きをしているんだろう」ということを考える大事な軸になります。私自身とても貴重な経験をさせていただいています。

国税庁総合職としての働き方

今は税務署にいますので、まさに税に向き合う仕事をしています。去年は国税庁の総務課という課室で、骨太の方針といった閣議決定資料の国税庁関係パーツの展開や

取りまとめ、行政文書の審査、災害対応など多種多様な業務を行っていました。国税庁で総合職として採用されると、ほぼ毎年違う部署に異動します。国税組織は全国に12局524署、約5万6千人の職員で構成され、様々な勤務地、業務内容を経験し、それぞれの場所で新しい知識や考え方と出会うことができます。国税庁総合職として働く魅力は、この出会いを通して自分の視野を広げることができることだと感じています。みなさんにとって国税庁が将来の選択肢の1つになれば嬉しく思います。



国税局調査官
広島国税局 課税第二部門
法人課税課 監理第一係 国税調査官
黒井 悠貴 令和2年入庁

国税局からみた 税務行政

国税局の仕事

国税局とは、国税庁の指示に基づき、管轄区域内の税務署の賦課徴収事務が適切に行われるよう管理・指導するとともに、大規模納税者等について、自らも賦課徴収を行う組織です。

私は現在、広島国税局の法人課税課で勤

務しており、主に管内の税務署(50署)の管理・指導業務に携わっています。国税庁が示した方針のとおり税務署が運営されているか管理しつつ、各税務署が課題等を抱えている場合にはこれを把握・抽出し、課題解決に向けた対策の検討に取り組んでいます。

現場での経験

税務署や国税局で勤務し、納税者や職員の方々とは接する中で、現場が抱えている課

題を目の当たりにし、また、課題に対する様々な意見や考え方に触れてきました。こうした経験は、国税庁の中だけで働いているだけではなかなか得られないものだと思いますし、税務行政の在り方を考えるに当たり、自分の中で大きな糧になっています。

国税庁総合職として

絶えず変化し続ける社会情勢に対応し、「内国税の適正かつ公平な課税及び徴収の実現」という国税庁の使命を果たしていくためには、現場がどのような課題に直面し、何を求めているのかを具体的に把握することが必要です。

国税庁総合職は、キャリアステップとして、税務署・国税局で勤務する機会が何度もあります。現場で得た経験(実体験)に基づき、望ましい税務行政の実現に向けた組織運営・制度執行の在り方を考え、これを実行できるという点は、国税庁総合職の大きな強みであり、やりがいの一つでもあると思います。

1年生職員として 引き出しを増やす



庁内係員
国税庁 長官官房
企画課 企画第一係 係員
市川 智久 令和4年入庁

企画課1年目の業務

企画課では「税務行政の将来像」の実現に向け、中長期方針の取りまとめやマイナンバー制度の活用検討、外国の税制度の調査などを行っています。

私の印象に残っている業務は、全国の税務署で交付されるリーフレットの作成です。

納税者が税務署へ提出する申告書にはマイナンバーの記載が必要であるため、申告書へのマイナンバーの記載を促すことに加えて、マイナンバーカードを利用することで、より便利に申告・納税できることを周知するリーフレットを作成しました。この業務を通じ「税務行政の将来像」の実現にほんの僅かですが貢献できた気がします。

現するためにとるべき行動は単純ではありません。どういった対応が適切か頭を悩ませつつ、一人一人の納税者に向き合うことに魅力を感じながら業務に取り組んでいます。

国税庁の魅力

税務署で勤務を始めて以来、納税者から税務行政に対するストレートな意見をいただくことが少なからずあります。税や税務行政が経済や社会、ひいては一人一人の暮らしに深く関与していることを考えれば、ある意味当然です。税務行政が変われば、暮らしも変わる。そう言っても過言ではないと感じています。

人々の暮らしに根差したそんな税務行政を、巨大組織を通じて変えていけるのは国

税務行政の最前線で

税務行政の最前線

私は現在、小牧税務署で個人に対する税務調査や確定申告の相談対応などを行っています。税務署は税務行政の最前線に位置しており、納税者と直にやり取りをすることが仕事の基本です。例えば、税務調査では、納税者の自宅や事業所に赴き、事業内容の聴取や帳簿書類の確認などを通じて申告内容に誤りや不正がないか調査します。

納税者とのやり取りでは、納税者の立場に配慮し可能な限り柔軟に対応すべき場面がある一方、毅然とした対応が求められる場面もあります。適正かつ公平な課税を実